

明治の死生観、語学教育におけるAI導入

研究者プロフィール

- ・ 教養教育センター 助教 中野優子
- ・ 国際文化、日本思想史、英語教育、日本語教育
- ・ 夏目漱石など明治知識人の死生観、明治のデスマスク思想
- ・ 教養英語科目における機械翻訳（MT）の導入、ピアラーニングなど
- ・ 日本思想史学会、日本比較文化学会、東北英語教育学会、全国英語教育学会、海外日本語教育学会
- ・ カナダで日本語教授法を学び、タイ、インドネシア、中国の教育機関で教鞭をとった。国内では国際交流、日英翻訳通訳を経て、現在に至る。

研究内容

皆さんはデスマスクというものをご存じでしょうか。ナポレオンやベートーベンのデスマスクを雑誌か何かで御覧になった方もいるかもしれませんが、デスマスクは死顔に石膏を塗って象った死面です。デスマスクは日本でも流行した時期がありました。日本で最初にデスマスクがとられた人物は明治の文豪・夏目漱石です。その後、にわかにデスマスク・ブームが起きたのですが、明治の人々はどのような思いから故人のデスマスクを残そうと思ったのだろうかといった疑問から明治の死生観研究が発せられました。現在は夏目漱石、森鷗外の死生観を中心に研究していますが、この他にも多くの明治知識人のデスマスクが残されています。

英語教育の研究では、google翻訳などの機械翻訳やChatGPTなどAIの発達が語学教育に大きな衝撃を与えているわけですが、こうした現状を鑑みて、英語必修科目の授業の中で、AIと正しく向き合いながら英語力を向上させるという試みを行っています。

関連キーワード

明治時代の死生観、教養英語教育、海外日本語教育、国際交流、通訳翻訳

地域・産学官連携の可能性、事業化のイメージ他

大学での英語教育、海外での日本語教育の観点からは国際交流などのイベント企画、参加やレクチャーは可能です。また、海外人材をお持ちの企業においては日本語指導、日本人エンジニア向けには英会話やTOEICの効果的な学習法の指導もお手伝いできます。また、東北在住の外国人と地域の日本人との交流が今後盛んになってほしいと思っています。

研究者への連絡先

nakano@mail.tohoku-gakuin.ac.jp